

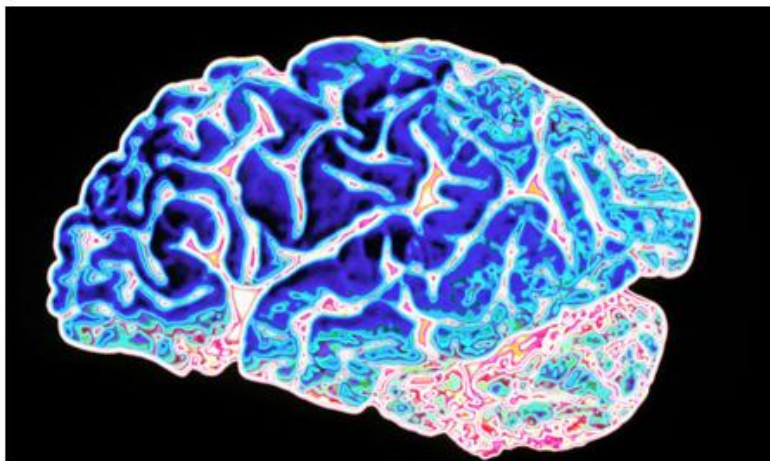
降圧治療による認知機能低下の 予防について

高齢の高血圧患者における**収縮期血圧 (SBP)** の目標値設定が**認知機能**に及ぼす影響を調べるため、70～79歳の男女 1657 人を 10 年間追跡した結果、SBP120mmHg 以下を目標にすると、より緩やかな降圧目標の患者よりも、認知機能検査のスコア減少が少なかったとする米国 Emory 大学の Ihab Hajjar 氏らの報告が、JAMA Neurology に掲載されました。



認知機能は、Modified Mini-Mental State Examination (3MSE) と、Digit Symbol Substitution Test (DSST) を用いて評価しました。

10年間のスコア低下が最も大きかったのは150mmHg以上のグループで、3MSEが-3.7点、DSSTは-6.2点低下していました。低下が最も小さかったのが120mmHg未満のグループで、3MSEが-3.0点、DSSTは-5.0点低下していました（いずれも $P < 0.001$ ）。



以上より、降圧治療を受けている70~79歳の高齢者では、**収縮期血圧(SBP)**の目標値を120mmHg以下にした方が、150mmHg未満を目標とするより**認知機能**の低下が小さいと結論づけられました。

